

K21年2月25日：韓国の合計特殊出生率 0.84 全世界 198 国で最下位

光州・大田含む 11 市・道で人口が自然減少

新型コロナ禍で結婚 10%減少…今年はさらに低下？

韓国統計庁が 24 日、「昨年の合計特殊出生率が 0.84 を記録した」と発表した。合計特殊出生率とは、1 人の女性が出産すると予想される子どもの数の平均を意味する。韓国の出生率は国連人口基金 (UNFPA) の昨年 6 月の集計で、世界 198 カ国の中で最も低いことが分かった。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により、年末になるほど出生率が下がった。昨年 10-12 月期の出生率は 0.75 人まで低下した。

早期死亡率まで考慮すると、1 人の女性が一生の間に 2.1 人の子どもを出産すれば、人口が維持できる。これを「人口置換水準」と呼ぶが、昨年の合計特殊出生率は人口置換水準の 40%にとどまった。この傾向が続けば、一世代 (30 年) 後の人口は半数以下に減ることになる。

出生率は今年、さらに下がるという見通しが出ている。新型コロナの影響で、昨年の結婚 (21 万 3513 件) は 2019 年 (2 万 5646 件) より 10.7%減っているためだ。

出生率が下がり、昨年の死者数が出生者数を上回ったため、初めて人口の自然減 (3 万 3000 人) が起こった。全国 17 の市・道のうち、ソウル市、京畿道、仁川市、世宗市、蔚山市、済州特別自治道の 6 市・道を除く 11 市・道で、自然減があった。全羅南道光州市と大田市は昨年初めて自然減地域になった。

チョン・ソクウ記者

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

K20年8月27日：韓国の合計特殊出生率 0.92 人で OECD 最下位、日本は？



韓国の昨年の合計特殊出生率が史上最低の 0.92 人だということが分かった。韓国は 2018 年 (0.98 人) に続き、2 年連続で経済協力開発機構 (OECD) 加盟国のうち最下位だった。韓国は OECD 加盟の国の中で唯一、合計特殊出生率が 1 人未満だ。

統計庁が 26 日発表した「2019 年人口動向調査出産統計」と題する資料によると、昨年の韓国の合計特殊出生率は 0.92 人だった。1970 年に出産統計を作成するようになってから最低の数値だ。これは、出産可能とされる年齢 (15 歳-49 歳) に 1 人の女性が産むと予想される子どもの数の平均が 1 人にも満たないことを意味する。

OECD は加盟国 37 カ国の合計特殊出生率を毎年調査し、発表してきた。人口を形成・維持するために必要な合計特殊出生率は 2.1 人とされる。しかし、韓国はその半分にも満たない。OECD 加盟国平均 (1.63 人) はおろか、超低出生率基準 (1.3 人) にもおおよぼ、圧倒的最下位だ。

合計特殊出生率が最も高かったのはイスラエル (3.09 人) だった。1 人の女性が平均 3 人の子どもを産んでいるとい

うことだ。家族を重視するユダヤ人の文化や宗教の影響と解釈される。以下、メキシコ (2.13 人)、トルコ (1.99 人)、フランス (1.81 人)、コロンビア (1.81 人) の順で後に続いた。

出生率が低いことで知られる日本 (1.42 人)、ギリシャ (1.35 人) などの合計特殊出生率も韓国よりは高かった。OECD の統計で韓国の次に合計特殊出生率が低かったのはスペイン (1.26 人) だった。しかし、スペインですら韓国との差が大きかった。

エンタメコリア